

離島の振興を促進するための高松市における産業の振興に関する計画

平成31年2月28日

香川県高松市

1. 計画策定の趣旨

本市は、四国の北東部、香川県の中央に位置し、北は、日本で最初に国立公園に指定された瀬戸内に面し、南は、讃岐山脈まで続く、変化に富む自然・地理的環境を保有している。

本市の総面積は、375.53k m²で、讃岐平野の一部である高松平野に位置し、都心部が臨海部に接する地理的構造にある。

本市は、古くから四国の玄関口として繁栄し、現在においても、道路網の整備水準が高く、海路・空路の港も所在し、地方支分部局や大手民間企業の支店等が集積するなど、県都・中核市として優れた都市機能が備わっている。

本市の人口は、平成22年(2010年)の国勢調査では419,429人であったのに対し、平成27年(2015年)の国勢調査では420,748人で、1,319人の増加となっているが、同時に高齢化率(65歳以上の割合)も22.3%から26.0%へ上昇している。

また、本市の離島振興法に基づく離島振興対策実施地域は、男木島、女木島、大島の3島で、人口は352人(平成27年国勢調査及び大島青松園作成の概況書)である。

これまで離島においては、本土との生活環境等に関する地域格差を是正するため、道路、水道、港湾などの生活・産業基盤の整備を積極的に推進した結果、離島の基礎条件改善等に成果をあげてきた。

また、平成22年より3年おきに開催される「瀬戸内国際芸術祭」をはじめとする、アートを切り口とした各種交流事業等の推進により、離島における大幅な交流人口の増加を図ることに成功したほか、男木島においては島外からの移住者も多く、休校となっていた小中学校が平成26年度(2014年度)に再開するなどしている。

しかし、男木島も含め、女木島、大島とも人口については減少し続けているほか、女木島と大島については高齢化の進展も著しく、それに伴う島内の空き家の増加や地域活動の停滞など、さまざまな問題が生じており、今後も引き続き、積極的な離島振興施策の推進が必要となっている。

【人口推移】

区分	平成22年(2010年)			平成27年(2015年)		
	人口(人)	世帯数	高齢化率	人口(人)	世帯数	高齢化率
高松市	419,429	174,278	22.3%	420,748	182,047	26.0%
うち、男木島 (男木町)	162	96	68.5%	148	90	63.5%
うち、女木島 (女木町)	174	100	66.7%	136	84	75.0%
うち、大島	105	-	99.0%	68	-	100.0%

※ 出典：国勢調査（ただし、大島については大島青松園が作成する概況書による入所者数）

2. 計画の対象とする地区

本計画の対象地域は、男木島、女木島及び大島とする。

3. 計画期間

本計画の計画期間は、平成31年3月1日から平成35年3月31日までとする。

4. 対象地区の産業振興の基本的方針

(1) 地域の概要

ア 男木島、女木島

男木島の面積は1.34k㎡で高松港北方10.1km、女木島の面積は2.62k㎡で高松港北方5.5kmの海上にあり、高松市本土との関連が深く、かつ高次の日常生活圏を形成している。

本地域と本土を結ぶ交通については、現在、民間会社1社によって航路が運航され、島民の生活を支えるとともに、瀬戸内国際芸術祭等での来島者の輸送を担い、観光振興の観点からも重要な役割を担っている。本航路は、男木島から女木島に寄港し、高松港を連絡し、男木島－女木島間の4.6kmを20分、女木島－高松港間の5.5kmを20分、計10.1kmを40分で運航している。また、通常は1日6往復12便で運航しているが、夏期の8月1日から8月20日までは、帰省、海水浴等の来島者に配慮し、女木島－高松港については1日12往復24便で運航している。

女木島には、平成15年9月に女木地区コミュニティ協議会が、また男木島には、同年12月に男木地区コミュニティ協議会が設置され、各島において、高松市本土と同様に、地域の個性を生かし、自主的・自立的に地域のまちづくりを行っている。

また、本地域は温暖、小雨の典型的な瀬戸内式気候であり、冬期の積雪はほとんど見られない。

イ 大島

大島（面積0.73k㎡）は、瀬戸内海国立公園区域にあり、庵治港から北西約2.5km、高松港から北東約8kmの海上に位置し、島の大部分が国有地で、その大半を国立療養所大島青松園（以下「大島青松園」という。）の施設が占めている。

大島と本土を結ぶ交通については、現在、大島－高松港間（8.2km）と大島－庵治港間（4.8km）がある。大島－高松港間は、官有船が1日5往復10便を片道20分で運航し、職員・職員家族及び入所者の面会、慰問者並びに食糧、生活必需品の輸送に用いられている。また、大島－庵治港間については、大島青松園職員の通勤専用として、特定旅客航路が1日8往復16便、片道15分で運航されている。なお、大島－高松港間は、大島青松園により、平成31年4月26日から1日5往復10便で、一般旅客定期航路が開設される予定である。

気候は、温暖、少雨の典型的な瀬戸内式気候であり、冬期の降雪はほとんど見られ

ない。地勢について、大島はもともと花崗岩を基盤とする二つの島からなり、砂州でつながって現在の形となっている。島の中央部にある砂州の西側海岸は、干潮時に海食台が現れ、東側海岸は、浸食が進行している状況にある。

島内からは、二千年近く前の土器が発掘されることから、古くから人が住んでいたとされている。また、源平合戦の戦場にもなった島で、屋島の大合戦に敗れた平家方の墓に植えられた松が、800年余りの歳月を経て、「墓標の松」として残っている。江戸期には、高松藩最大の島として山守りが置かれ、明治時代には10戸ほどが半農半漁の生活を営んでいた。

明治42年に、中国・四国8県連合で香川県知事管理のハンセン病療養施設である「第4区療養所」が発足し、昭和16年に厚生労働省に移管された後、昭和21年に「国立療養所大島青松園」と改称された。

平成8年のらい予防法の廃止後は、ハンセン病療養所の歴史など、人権学習のために島を訪れる人が増加し、島外の人との交流が盛んになっているほか、「瀬戸内国際芸術祭」を契機に、芸術祭関係者などとの交流も活発化している。

本市では、大島青松園の歴史等を後世に伝えていくとともに、大島全体の今後の在り方について検討を進めるとともに、広く市民等の意見を聴くため、平成25年7月に「大島の在り方を考える会」を設置し、6回にわたり開催した会議での意見を踏まえつつ、平成26年11月に大島の将来構想ともいえる「大島振興方策」を取りまとめた。

【現況】

島名	離島指定年月日	面積
男木島	昭和32年12月23日	1.34 k m ²
女木島	昭和32年12月23日	2.62 k m ²
大島	平成27年7月13日	0.73 k m ²

(2) 産業の現状

ア 男木島、女木島

男木島及び女木島の農業は、平野部が少ないため、山裾から海に向かう急斜面に階段状につくられた畑地帯を利用したエンドウ豆、ソラマメ、落花生、ニンニク、かんきつ類などの畑作農業が主体で、その経営規模はいずれも零細であり、従事者の高齢化も進んでいる。水産業については、不況や消費の減少などによる魚価の低迷、従事者の高齢化、後継者不足等の問題を抱えているが、サワラ、マダコ、ヒラメ等、放流事業に取り組んでいる魚種は安定した漁獲があり、両島の漁業を活性化している。両島では、漁獲高の伸び悩み、漁業者の高齢化、後継者不足による組合員の減少を背景に、男木島漁業協同組合と女木島漁業協同組合が合併し、平成25年1月に東瀬戸漁業協同組合が発足した。

イ 大島

大島には大島青松園の入所者や職員などの関係者のみが居住していることから、療養所に係る産業及び雇用しかない状況であり、新たな産業の創出による雇用機会の確保が課題となっている。

【産業分類別就業者率】

島名	第1次産業	第2次産業	第3次産業	分類不能
男木島	31.4%	7.8%	60.8%	—
女木島	51.9%	1.9%	46.2%	—
大島	—	—	—	—

※ 平成 27 年国勢調査

(3) 産業振興を図る上での課題

ア 男木島、女木島

水産業については、両島とも漁業者の所得安定、後継者の育成が喫緊の課題であることから、増殖場の誘致、各種放流事業を実施し、水産資源の増大を図る。

農業については、女木島の東側一部には平坦地があるものの、両島とも、山の斜面主体の傾斜畑が多く、農業の経営規模が総じて零細であり、水産業同様、従事者の所得安定、後継者の育成が喫緊の課題である。しかしながら、温暖な気象条件を活かした春のエンドウ豆、ニンニクについては、高松市中央卸売市場において独自にセリが行われるなど、市内流通業者からは高い評価を得ているほか、初秋の落花生の産地でもあるため、これら特色ある農産物の生産振興を図る。

また、近年、イノシシに農産物を荒らされることも課題であることから、引き続き、農業被害低減と来島者の安全確保のため、県、地元猟友会等と連携し、イノシシ等の有害鳥獣対策を図る。

農林水産物等販売業、観光業については、両島の豊かな自然環境等の観光資源の活用により、農林水産業と観光の一体的な振興を図るという観点から、両島における滞在型の余暇活動、農林水産業体験及び交流の取組を推進するとともに、農商工連携等を通じ地域特性を生かした新規商品の開発を行い、高付加価値型商品の販売促進を図る。

情報サービス業等については、離島と本土との情報通信技術の利用機会に係る格差是正を図ることが重要である。本地域の一部については、民間事業者が超高速無線サービスを提供しているところであるが、今後はその拡充が期待される。

イ 大島

本地域において、自立的な発展を促進するためには、地域の特性を生かした新たな産業を創出する必要がある。

このことから、手付かずで豊かな自然環境や瀬戸内国際芸術祭の芸術資産を活用した体験・滞在型の余暇活動など、大島ならではの産業の創出が図られるよう検討し、雇用機会の確保に努める。

また、産業の振興に寄与する人材の確保・育成や起業希望者への支援により、人口の拡大につなげる。

さらに、「港湾・棧橋の整備」や「定期航路の確保・維持」などにより、交流・定住の促進に向けた環境が整備された場合においては、大島の優れた環境・景観を生かして、高齢者が安心して生活を送ることができる老人福祉施設のほか、障がい者の自立を支援する障害者福祉施設や、児童に健全な遊びを与え、健康の増進や情操を豊かにする児童厚生施設（児童館）の誘致等を検討する。

5. 産業の振興の対象とする事業が属する業種

本計画における産業振興の対象業種は次に掲げるとおりである。

- (1) 製造業
- (2) 農林水産物等販売業
- (3) 旅館業
- (4) 情報サービス業等

6. 事業振興のために推進しようとする取組み・関係団体等との役割分担

高松市の産業振興を図る上での課題を解決するため、租税特別措置の活用を促進し、製造業、農林水産物等販売業、旅館業、情報サービス業等の設備投資・雇用を促進するために、国、県、関係機関等と連携しながら以下の取組を行う。

【高松市】

租税特別措置について、本市のホームページなどで周知するほか、関連団体等を通じて該当する企業に対し活用の促進を図る。また、高松市企業誘致条例に基づく設備投資・新規常用雇用者に係る助成制度を活用し、企業の設備投資等を促進する。

【香川県】

香川県企業誘致条例に基づく設備投資・新規常用雇用者に係る助成制度、地域経済牽引事業の促進区域や離島振興対策実施地域における県税の特別措置等を活用し、企業の設備投資等を促進する。

【高松商工会議所等】

中小企業・小規模事業者の経営に関する相談や金融、税務、労務等の経営基盤にかかる指導等を行い、地域の商工振興のための活動等の取組みを支援する。

【香川県農業協同組合】

各事業者に対する支援・指導、各種特産品等による島のPR、その他産業振興への協力等を行う。

【東瀬戸漁業協同組合等】

各事業者に対する支援・指導、各種特産品等による島のPR、その他産業振興への協力等を行う。

【鬼ヶ島観光協会、男木島観光協会等】

島の観光情報等の発信、観光客の誘致、その他産業振興への協力等を行う。

7. 計画の目標

本計画に係る計画期間中の計画目標は次のとおり。

(離島振興対策実施地域)

業種	指標	内容	目標件数
製造業	設備投資件数	企業進出・規模拡張に伴う新增設、既存事業者の取得件数	1件
	新規雇用者数	企業進出・規模拡張に伴う新規雇用者数	2名
農林水産物等販売業	設備投資件数	企業進出・規模拡張に伴う新增設、既存事業者の取得件数	1件
	新規雇用者数	企業進出・規模拡張に伴う新規雇用者数	1名
旅館業	設備投資件数	企業進出・規模拡張に伴う新增設、既存事業者の取得件数	1件
	新規雇用者数	企業進出・規模拡張に伴う新規雇用者数	1名
情報サービス業等	設備投資件数	企業進出・規模拡張に伴う新增設、既存事業者の取得件数	1件
	新規雇用者数	企業進出・規模拡張に伴う新規雇用者数	2名